

『時事直言』 No.1444 2020年12月22日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng/)

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

死んでいただくのはトランプかバイデンか？！

人間の宿命は存在の為の「欲の追求」、だから人間は「欲の動物」である。

欲の象徴は「資本」であり、資本の権化は「独占資本」(ユダヤ資本)である。

川面の「一本の葦」でしかない人間は欲を追求する「自由」を保障してくれる国家がなくては存在出来ず、又「予算(資本)なくして国家なし」である。

だから言うなれば「国家は資本の奴隷である」。

国家に資本(通貨)を与える、国家から分離した中央銀行のオーナーである独占資本の中心的存在がユダヤ資本である。

「欲とは奪うことである」ことを忘れてはならない。

世界秩序とは、ユダヤ資本が世界から奪うためのインフラである。

大戦で荒廃した世界経済が復興から繁栄に向かう過程で、奪う為に最も効率的であったのが戦後のリベラル世界秩序である。

ところが今や戦後の秩序が老朽化して能率が悪くなってきた。

その為より高率的に奪う為に戦後の体制をリセットする必要があるとユダヤ資本右派は主張するが、左派はまだまだ奪えるのだから現体制を維持すべきだと言う。

右派は2016年11月の米大統領選で左派の反対を押し切って強引に不正選挙でトランプを大統領に選んだ。

トランプは大統領就任早々現行秩序のスクラップ(破壊)に取り組んだ。

本年11月の大統領選でイスラエル左派は不正選挙でトランプを蹴落としバイデンを選びアメリカをトランプ前のオバマ時代に戻そうとしている。

トランプは選挙の不正を州最高裁と連邦最高裁に提訴、選挙無効を訴えるがすべて門前払い。

頼りの共和党のトップ、院内総務ミッチェル・マッコーンネルにまで裏切られた。

外国の干渉と現状維持派の不正で毒されたアメリカの民主主義を憲法のもとに取り戻せなくなったトランプは今や「最後の手段」に追い込まれた。

トランプを選んだ戦後リベラル世界秩序の産みの親 CFR(国際問題評議会)やキッシンジャーはどうしたのか。

イスラエル右派は左派にやられっぱなしでいいのか。

これからアメリカがどうなるかを決めるのはイスラエル右派でも左派でもない。

イスラエル両派の上にいる目に見えない存在、「資本の意志」である。

「資本の意志」はトランプかバイデンか、どちらに死んでいただくか決めている。

トランプに「非常事態宣言」を強く勧めているマイケル・フリン氏(前安全保障大統領補佐官)と会った(12/26 - 27)後の「増田塾(国際政経塾)」でお二人さんがどうなるかお話しすることになっている。(お二人ともまだ生きていうちに)

3日間30以上の講座で、新型コロナが加速する政治・経済制度のリセット、デジタル通貨の恐ろしさ、金本位制という新たな独占資本支配体制等々について述べてきたが、肝心なことはこれからも続く。

増田塾入門はドリオネアへの登竜門でもある。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。